

8月は梅雨時を思わせる異例な長雨が続き、広島県を含め西日本各地に被害をもたらしました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災地のみなさまに対し心からお見舞いを申し上げます。

夏休み中、高校3年生はいつも通りに登校し、進学補習、面接指導・練習にと真剣になって取り組みました。右は面接指導の一場面です。広島修道大学の附属校推薦をはじめ、総合型受験を志望する生徒の大半は面接が課せられています。「まずは第一印象が大切だからね」という教員のアドバイスを受け、「普段の過ごし方も重要だよ」ということも加えられます。生徒は緊張した面持ちで指導に臨んでいました。練習の成果が発揮されることを期待しています。頑張れ、高校3年生。



「その想いを行動に！そして、カタチに。」

8月24日(火)、2学期がスタートしました。始業式はZoomで行うため、生徒は各教室で今学期に向かう心の準備を整えました。放送室から全校生徒に対し、「1学期の始めにも言いましたが、何事も謙虚な気持ちが大切です。『報恩感謝・実践』に基づきます。どうしたら次に進めるか、一歩前へ出られるか。謙虚な気持ちがあつてこそ叶うと信じています。そして、進路決定時期が迫りつつある高3に限らず、すべての学年のみなさんが、置かれた状況でどう始め、どう継続するかを考えて、今日のスタートを切りましょう」と伝えました。生徒だけではなく、我々教職員にとっても同様のことです。謙虚な姿勢なくして前進はせず。新型コロナの感染拡大の中、ますます制限が加わってくるでしょうが、何ができるか、すべきかを念頭に2学期に向かっていきたいものです。

今夏、いくつかのクラブ(団体・個人)が全国大会に出場しました。その中で、全国高等学校将棋選手権大会(和歌山)に出場した高校1年生川西彩遥さんが見事に優勝しました(本校には将棋部はないのですが、学校代表として出場)。これは、6月、北海道で行われた第50回ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップソフトテニスにおいて優勝した高校3年生濱島怜奈さんに続くもので、今年度2つめの“日本一”ということになりました。

優勝しました、日本一になりましたと言葉では容易く言えても、そこに至るまでの心身の鍛錬、努力は並大抵のものではないことは誰もが感じることでしょう。一方で、才能や運があるからだと言及する人もいるかもしれませんが、それを開花させるのは本人の強い想いが根底にあり、それすらも真の力であると思わなくてはならないはず。想いをカタチにしていくなりの努力に敬意を表したいと思います。

夏休みの進学補習のお手伝いしました。高校3年生の「小論文補習」です。前任校(広島工業大学)で指導していたものを用いましたが、「パラグラフ・ライティング」といって、英語圏で広く使用されているスキルです。結論を先に、そして、順次その理由・根拠を説明していくという方法です。「最初のセンテンスに読み手の心を掴むほどの意見や主張を示すこと」が肝心であることを伝えながら、2日間(50分×4コマ)、時折課題に取り組んでもらいながら補習を行いました。

生徒の課題作成状況を見て回っていると、“おやっ”と吸い込まれるような作成文に出会いました。「なかなかいい表現だねえ」とその生徒に感想を添えると、「そうですか」と少々怪訝そうな表情を返してきました。補習が終了すると、「先生、志望大学の過去問(小論文)を書いたので見てもらえませんか」と言う女子生徒がいました。その生徒でした。

持参してきた文章を読むと、個性的な捉え方に満ち、煌めいた言葉に溢れていました。志望大学を問うと、芸術系の大学を志望しているということでした。豊かな表現は生徒の特性なのだ納得しました。ならば、常套表現で作成するよりは、想いを込めた、個性を表出する文章作成が望ましいのではないかと考えました。出願にあたって複数の課題が出されていましたが、生徒にそのことを伝えながら添削をしていきました。

何人かの先生方に見てもらったようで、出来具合に「賛否両論ありました」と評価が割れることに生徒は若干もがいているようでした。無責任なようですが、どの方向性に定めるか、何を選択するかは自分が「どうしたいか」の想いに頼るのみ。挑むのは自分であることを忘れないように、と助言しました。日ごとに生徒の眼つきに、放つ言葉に変化が見て取れました。

いよいよ出願となります。望むカタチになることを心から願っています。きっとカタチなると信じよう。